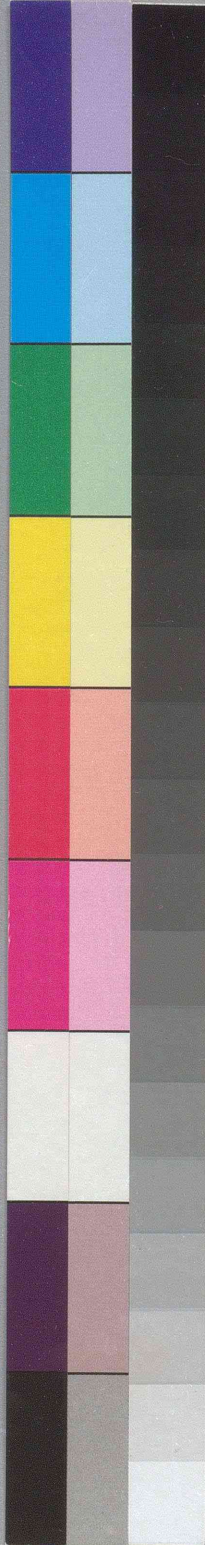


上州
草津
温泉名所旧跡

全

K2853
325

260002 群馬県立
図書館



荒井農治

占州 草津 温泉 名處 舊跡

國利画



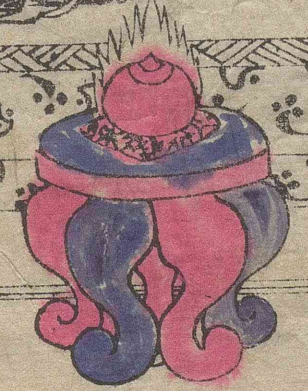
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに



万亭 應賀 編

万亭 應賀 編



荒井豊次

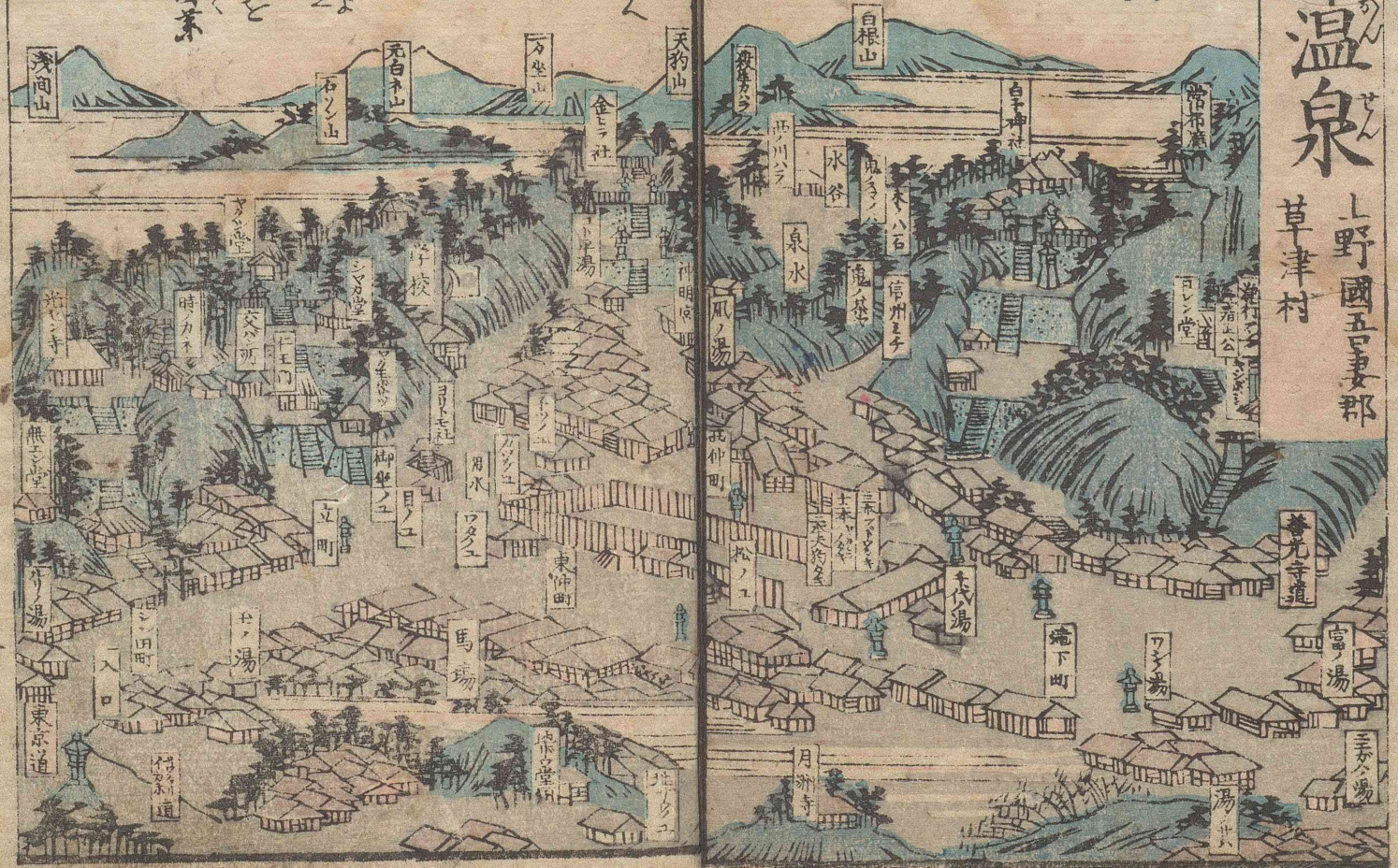
K295.3
J25

草津の荒井豊次
 草津の二神
 國民の病疾
 草津の温泉
 草津の歴史
 草津の文化
 草津の産業
 草津の交通

神代の著
 大正貴の著
 草津の温泉
 草津の歴史
 草津の文化
 草津の産業
 草津の交通

草津温泉

上野國五妻郡
 草津村



荒井豊治

草津



法と無人不
 教へぬ
 名は基
 道源河指温
 泉の池と開く
 主中あゆふ
 泉の特別の温泉

ありとぞわねと小貴と凡温泉ありふ
 今の人の醫業のそとありて温泉の効
 をある者強どかし
 古人雙桂先生の著しる温泉小
 云の書ハ温泉出處の理致きこり
 病愈ふよりと益あると害あるとの
 差別と秘法しこれを醫者を始
 め諸人も必お心得るなりのみとバ
 其書のとめ紙ありふゆを
 凡そ温泉の功致ハ湯気紙室通

草津

温泉功効

あ	つ	ひ	せん
か	さ	ふ	た
ら	む	ま	ら
せ	ん	き	ま
た	い	ど	く
せ	ん	き	ま
ら	む	ま	ら
が	ん	が	さ
あ	ら	む	ら

三

主持

草津

千代の湯
むらさきの湯
洗心湯
あうとふ



地藏の湯
乳の湯
あふた湯
あふ



綿の湯
肥身の湯
あふた湯
あふ



松の湯
あふた湯
あふ



風の湯
あふた湯
あふ



琴平の湯
あふた湯
あふ



草津

山口 八
市川 七
市川 七
小市 七
山本 七

東京ヨリ當所へ里程

高崎 二十七里余

神倉 二十里

おん田 二十七丁

大戸 二十七丁

須ヶ尾 二里

長の京 二里余

草津

伊香保 當所へ里程

伊香保 二里半

五所田 二里半

中の湯 二里半

さくさく 二里

暮坂峠 二里

生須 二里

小雨 二里余

草津

湯子ゆこの湯
湯子の湯
 此湯へ入ると


熱川あつかわの湯
 此湯へ入ると
 食物の味
 加倍する


富とみの湯
 富の湯へ
 入ると
 うんちが
 柔らかい


月つきの湯
 月やまの人よ
 効あり


雑ざつの湯
 此湯へ入ると
 花の
 色と匂い


白しろ壽じゆの湯
 此湯へ入ると
 白玉の
 色と匂い


當所ヨリ諸方へ里程

東 京 四十五里

高 崎 十七里

伊 香 保 十二里

前 橋 十八里

富 岡 十八里

白 根 二 里

萬 徳 湯 泉 二 里

万 産 湯 泉 二 里

加 沢 湯 泉 九 里

山 田 湯 泉 六 里

浅 間 山 八 里

上 田 十 三 里

志 賀 七 里

善 光 寺 十 四 里

飯 山 十 一 里

返 分 十 一 里

須 坂 九 里

松 本 廿 五 里

野 村 光 山 廿 六 里

越 後 高 田 二 十 里

新 潟 所 廿 一 里

五 十 九 里

草津二十景



常布滝
向布の滝
流る



向根神社
白根の宮



折目系
袴着
深衣



月洲寺
碁碁碁
月のえて
月洲寺

草津



殺生
河原
殺生のむら
川原
丸をころ



西の系
新系
西の系
川原



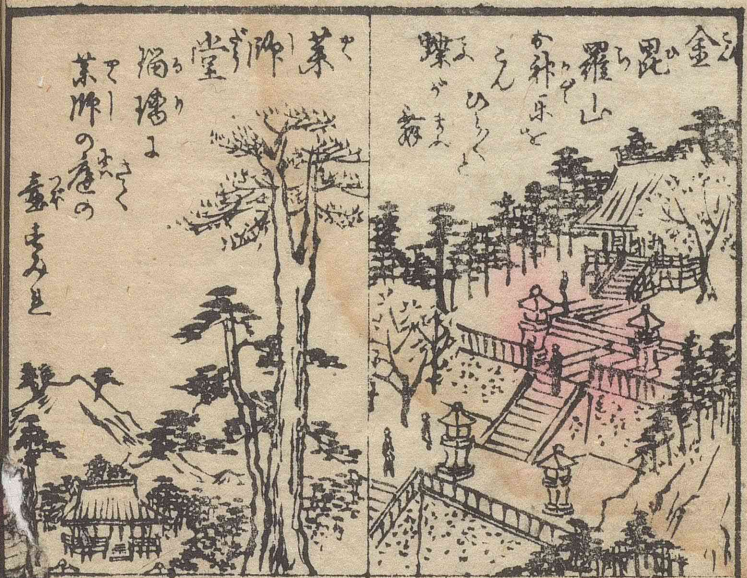
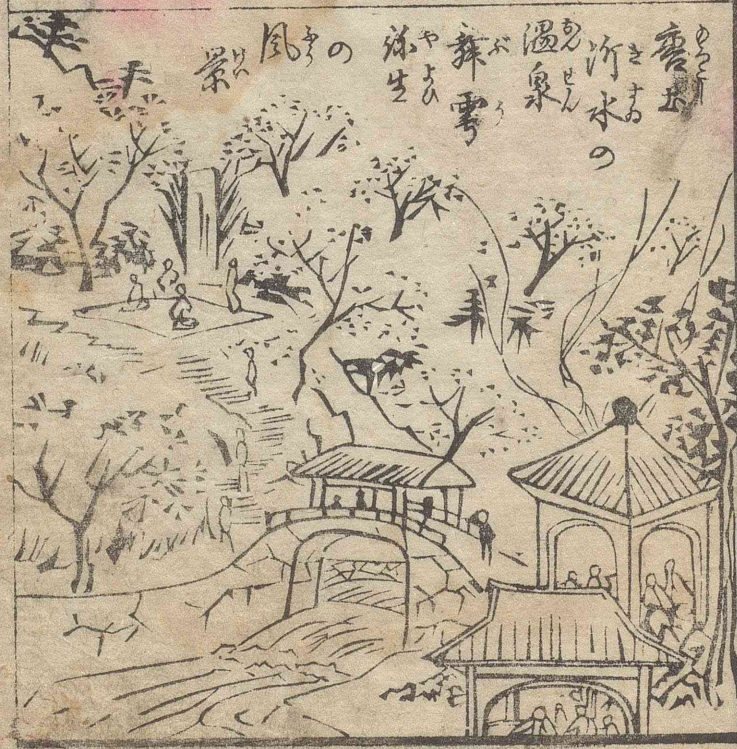
氷の谷
氷谷
氷谷



鬼の角力場
角力場
角力場

茶井院

孔子曾哲ノ志ヲ
問其答ニ曰
暮春者。春服既成。冠者。童子。浴乎沂。風乎舞雩。而歸。曰。吾與點也。





御届明治五年五月言
 東京下谷西町三番地
 編輯人 服部應賀

賣捌所

版元

東京神田鍛冶町六番地

長谷川忠兵衛

上荔草津

寫真師

山本充造
 宮原團十
 宮原市藏



大島村
沙流井

群馬県立図書館



0296340-3